

- ★ 生育は平年並みからやや進んでいるが、茎数はほ場によってバラツキ！
- ★ 茎数が確保されているほ場は中干しを、とれていないほ場は茎数確保を！

## 1 君津地域の生育概況

今年は、気温が平年より高く推移していることから葉令の進みが早くなっていますが、茎数はほ場によりバラツキが見られます。

生育が順調なほ場については、既に目標茎数が確保されたほ場もありますので、早めに中干しを行って過剰な分けつを抑えましょう。

一方で、強風による植え痛みや「ワキ（地中からのガス）」による生育不良で茎数が少ないほ場も見られます。これらのほ場では引き続き茎数の確保が必要です。

ほ場ごとに茎数を確認し、適切な管理を実施しましょう。

## 2 生育調査ほの調査結果（5月20日）

品種	年	田植え日	葉令	草丈(cm)	茎数(/株)	茎数 (/m <sup>2</sup> )
ふさおとめ (袖ヶ浦市)	<b>28</b>	<b>4/17</b>	<b>7.2</b>	<b>28</b>	<b>12.2</b>	<b>189</b>
	平年	4/16	7.1	25.2	12.4	186
	平年比	+1	+0.1	111%	98%	102%
ふさこがね (君津市)	<b>28</b>	<b>4/18</b>	<b>6.8</b>	<b>26</b>	<b>16.4</b>	<b>313</b>
	平年	4/19	6.2	23.3	9.5	181
	平年比	-1	+0.6	112%	173%	173%
コシヒカリ (君津市)	<b>28</b>	<b>4/20</b>	<b>6.9</b>	<b>34</b>	<b>15.7</b>	<b>315</b>
	平年	4/20	6.3	28.2	12.7	241
	平年比	±0	+0.6	121%	124%	131%
コシヒカリ (一発肥料) (富津市)	<b>28</b>	<b>4/25</b>	<b>6.3</b>	<b>27</b>	<b>10.0</b>	<b>163</b>
	平年	4/21	6.0	29.0	11.8	208
	平年比	+4	+0.3	93%	85%	78%
コシヒカリ (木更津市)	<b>28</b>	<b>5/1</b>	<b>5.4</b>	<b>27</b>	<b>5.6</b>	<b>93</b>
	昨年	5/8	4.4	25.5	4.7	81
コシヒカリ (君津市)	<b>28</b>	<b>5/1</b>	<b>4.4</b>	<b>23</b>	<b>7.3</b>	<b>103</b>

※平年値は過去 10 年（2006～2015 年）平均値。ただし、①富津市のコシヒカリ一発肥料のほ場は過去 9 年（2007～2015 年）平均値、②木更津市のほ場は 26 年から調査を始め、君津市のほ場は 28 年から調査を始めたため、平年値はなし

### 3 これからの管理のポイント

#### ① ほ場ごとに茎数を確認し、中干しの適期実施

順調に生育しているほ場では、既に中干し開始目標茎数に達しているほ場もあります。茎数過多は玄米品質低下の原因となるので、表1の中干し開始時期の目安を確認し、目標茎数に達し次第、中干しを開始して過剰分けつの発生を抑えましょう。特に、「コシヒカリ」は倒伏を回避するため、中干しは適期に実施しましょう。

一方で、目標茎数に達していないほ場では、引き続き浅水管理で茎数確保を図る必要があります。今後も気温が高い予報となっているため、茎数が急激に増加する見込みです。中干しが遅れないように注意しましょう。

表1 品種別の中干し開始時期の目安

品種	植付時期	中干し開始目標茎数		
		砂質土	壤質土	粘質土
ふさおとめ	4月20日	480本/㎡ (27本/株)	480本/㎡ (27本/株)	440本/㎡ (24本/株)
ふさこがね	4月20日	360本/㎡ (20本/株)	360本/㎡ (20本/株)	360本/㎡ (20本/株)
コシヒカリ	4月20日	320本/㎡ (18本/株)	310本/㎡ (17本/株)	300本/㎡ (16本/株)
	5月1日	(18本/株)	(17本/株)	(16本/株)

※ ( ) 内は60株/坪植えの時の1株当たり茎数の目安

※極端な疎植の場合はこの目標茎数に達しないことがあります

中干しの強さは田面に亀裂が入り、田面を歩いても長靴が沈まない位を目安とします。乾きにくいほ場では中干し開始数日後に溝切りを行うと効果的です。

土壌を固めることで、梅雨期の多雨条件でも田面の水はけは良好となり、収穫期の地耐力が増し、秋のコンバイン収穫が容易となります。昨年は収穫時期に降雨が続いたことで、刈り遅れ等による品質低下につながりました。今年は収穫作業をスムーズに進めるためにも、中干しを確実に実施しましょう。

#### ② 水田のワキ対策について

昨年の秋冬の長雨により水田が乾かず湿った状態で耕起したほ場や稲わらのすき込みが遅れたほ場では、水温の上昇により微生物活性が急速に高まり、土壌中の酸素が欠乏します。この影響で、土壌が還元状態になり、「ワキ」と呼ばれる植物の根に有毒なガスが発生します。

今年は一部のほ場で、「ワキ」が発生したことによる生育停滞が見られます。「ワキ」の発生が多くなると根の活力が低下し、草丈は低く分けつは出にくくなり、下葉が垂れて黄化してきます。

この対策として、軽く田干し(1~2日間落水)を実施します。地表から水が無くなると、ガスが抜け、根には酸素が補給され、根は地中深く伸びるようになります。

基肥をしっかり入れたにも関わらず葉色が薄い等の生育停滞が見られる場合には、ほ場に足を踏み入れて気泡の発生を確認しましょう。気泡の発生が多い場合には、軽く田干しを実施して生育の回復を図りましょう。

-郵便で配信している方へお願い-

稲作情報の配信を郵便から、電子メールまたはFAXに切り替えを進めています。  
電子メール・FAXをお使いの方は、下記までご連絡ください。  
連絡先 青木 y.aoki31@pref.chiba.lg.jp 0438-23-0299 (電話)

※ 次号は「6月8日頃」発行予定